

	評価項目	評価	取り組み状況及び課題
(1)	園の教育・保育理念や目標及び重要事項を理解しているか	78%	園の教育・保育理念な目標は共通理解を図る場を設けているが、習熟度としては、評価が低めである。また、保護者へは入園パンフレットや重要事項説明書に明記して周知できるようにしているが、保護者アンケートでは、16%の保護者がやや満足という結果が出ていたので、今後、個人面談などを通して伝わりやすい方法を考えていく。
(2)	園の教育・保育理念及び目標と教育・保育要領の関係を理解し、教育・保育の全体的な計画及び支援計画に基づき、指導計画を作成しているか	82%	園の教育・保育理念及び目標をもとに指導計画を作成している。0歳児から就学前までの教育・保育を見据えて育ててほしい10の姿を捉えて進めている。月毎・学期毎の評価及び反省を繰り返しながら取り組んでいることもあり、各クラス担任が自信をもってクラス経営に携わっていると分析している。3年未満の職員については、園内外研修を通して、教育・保育内容の理解に努めている段階である。
(3)	個人情報適切に取り扱うとともに(プライバシーの保護、秘密保守)、保護者からの苦情に対し、その解決を図るよう努めている	90%	個人情報の取り扱いについては、保護者からの同意書をもとに情報を取り扱うようにしている。また、定期的に研修等を通して職員間で周知するよう、努めている。保護者からの意見などについては、園長への報告・相談をしながら丁寧に対応できるように努めている。職員は、個人情報の取り扱いに対する理解はしっかりできている。保護者に対しては、苦情解決相談窓口の設置について、周知できるよう玄関先に貼りだしたり、実績報告を年に3回行い、さらに苦情に関する案内について文書を配布している。
(4)	園児一人ひとりの人格の尊重、個人差に配慮した教育・保育を行っているか	91%	職員の理解度としては91%と評価も高く、日々一人一人に寄り添った関わりを意識している。また、保護者アンケートから園で好きな友だちや先生がいると87.5%の保護者が評価しているが、やや不満という声もあるので、再度、職員間で見直ししていく。個人面談などを通して、保護者からの情報をもとに子ども一人一人を見つめ直すように努めていく。
(5)	就業規則などの諸規則を理解し、守り、業務遂行にあたって正解・迅速かつこまめに報告・連絡・相談・確認を実践しているか。	90%	就業規則など、年度末の職務会などを通して職員間で共通理解ができるように努めている。また、業務遂行にあたっての諸規則についても各チーフの指導のもとすすめている。その都度、問題が生じたときには、園長、副園長を含め問題解決に向けた仕組みづくりをしている。職員の満足度も90%と評価も高いが、新人職員やパートの職員への配慮が丁寧にできるよう、中堅以上の職員が意識して職場環境づくりに取り組んでいくことを確認し合った。
(6)	乳幼児期の教育・保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを知っているか	90%	認定こども園における教育・保育要領をもとに乳幼時期の教育・保育内容について、園内外の研修および自己研鑽を積みながら今後も幼児教育者としての専門性を高めながら質の高い幼児教育を目指すことを職員間で確認しあった。職員の評価も90%となっている。
(7)	乳幼児期全体を通して、その特性及び保護者や地域の実情を踏まえ、環境を通して行うことを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものとなるように努めているか	82%	認定こども園における教育・保育要領をもとに乳幼時期の生活全体が豊かなものとなるよう、保護者との日々のコミュニケーション、また地域の実情をしっかり把握できるように努める。新型コロナウイルス感染防止で地域とのコミュニケーションが希薄となっているので、今後はどのような形で関わっていけるか検討する。
(8)	乳幼児期における発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、園児の生活を保障し、保護者とともに園児を心身共に健やかに育成するものであることを理解しているか	85%	認定こども園における教育・保育要領をもとに乳幼時期の教育・保育内容について、基本的事項の学びを続け、保護者との面談等を通して、園児の発達成長について共通理解のもと、園生活を進めていく。今後、保護者とのコミュニケーションを大事にしながら全体的評価のアップにつなげられよう努める。
(9)	幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」10項目について理解しているか	73%	0歳児から就学前までの幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」10項目については、市全体的な計画及び指導計画や園内外研修を通して、日ごろから意識して教育・保育を行っているが、達成度としての評価は73%と低いので、具体的な課題を今後見出して取り組む必要がある。
(10)	カリキュラム・マネジメント、全体的な計画の作成、実践、評価、改善によって園の教育・保育活動の質の向上が図られていることを理解しているか。	82%	認定こども園における教育・保育要領をもとに、PDCAサイクルを行い、日々の振り返りを大事にしながら取り組んでいる。クラス運営に関しては、園全体の職務会、ショートミーティング等、さらに外部講師によるコンサルティングを受講しながら、保育の質の向上に向けて取り組めるようにしている。
(11)	指導計画は、園児の発達に即して一人一人が乳幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために具体的に作成しているか	84%	指導計画を作成する際に「ねらい」に基づいて組み立てるようにしている。子どもたちに保育園生活で身につけてほしい、達成してほしいことをクラス担任で話し合いながら作成し、クラスの振り返りを繰り返しながら、「ねらい」が達成できたか確認できるようにしている。年齢に応じて身体能力は異なるため、幼児理解について、園内外の研修を積み重ねながら経験年数に偏らず、指導計画がきちんと作成できるよう、人材育成を続けることを課題としている。
(12)	指導の過程を振り返りながら園児の理解を進め、園児一人一人の良さや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにしている	86%	個別指導計画や個別記録を通して子どもたち一人一人の育ちを定期的に確認する仕組みをつくっている。また、年齢別に作成された指導案をもとに個別評価を行い、一人一人の成長発達記録をとりながら就学までに身につけさせたいスキルを個々に確認できるよう、努めている。
(13)	支援の必要な園児などへの指導に当たっては、集団の生活の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、適切な環境の下で、他の園児との生活を通して共に成長できるよう、個々の園児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行っている。	81%	統合保育を行うなかで、毎月個別月案を作成し、園、保護者、関係機関との連携を図りながら、指導を行っている。さらに園での様子をエピソードなどを加えながら情報を共有し、専門家の講師の助言を仰ぎながら、一人一人の個性を大事にしながら関わりを深められるよう園全体の課題としている。

(14)	入園した年齢により、集団生活の経験年数が異なる園児がいることに配慮する等、0歳児から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を園児の発達や学びの連続性を考慮して展開しているか	81%	それぞれの入園する時期、年齢を考慮し、入園前の生活の様子などを丁寧に聞き取り、園生活を送る中で、一人ひとりの園児に寄り添った対応に戸惑うことも多く感じる場面に遭遇することがあげられた。前期、後期に個別目標を立てて、保護者と一緒に確認し合いながら今後も子ども一人一人の育ちを保護者とともに見守り、支援していけるようにする。
(15)	認定子ども園は「子育て支援」が必須であることを知っているか	85%	地域における子育て支援を行える場所になり、日々、子育て相談や親子のつどいの場であることは職員間で共通理解しているが、コロナ禍において計画通りに進められていないことが現状である。その中でも丁寧な対応ができるよう工夫し、園庭開放や相談などできる範囲で実施できるように努める。
(16)	園児も心身の発達及び活動の実態など個人差を踏まえるとともに一人一人の園児の気持ちを受け止め、援助しているか。	87%	子ども一人一人の状況を把握できるようにクラス間及び職務会の中で情報を共有できる仕組みをつくっている。さらに専門の講師を招いて園内研修を通して、園児の気持ちとの向き合い方について学んでいるが、一人一人のおかれている環境や発達の個人差などもあるので、子どもたちとのコミュニケーションを大切にしながら対応することを常に課題としている。
(17)	危険等発生時対処要領に基づき、事故の発生に備えるとともに施設内外の危険な箇所の点検や訓練を実施し、また、外部からの不審者などの侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備え、必要な対応を行っているか	89%	安全かつ適切に質の高い教育・保育を提供するために、危機管理マニュアルを策定し、事故を防止するために体制を整備している。(毎月の避難訓練や傷病訓練、安全対策指導訓練を行うことで、不測の事態に迅速に対応出来るようにしている。また、保育室や園舎外の安全点検も月に2回行っている。)
(18)	日常の様々な機会を活用し、園児の日々の様子の伝達や収集、教育及び保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るように努めている	81%	日頃の登降園時や連絡帳を通して、保護者とのコミュニケーションを図るようにしているが、さらに年に2回の個人面談では保護者の気持ちに寄り添えるよう取り組んでいる。保護者からの意見などについては、報告、連絡、相談をすることで迅速に対応できるように努めている。
(19)	認定子ども園として、地域の子どもが健やかに育成される環境を提供し、保護者に対する子育て支援の総合的な提供を推進するため、地域における乳幼児の教育保育の中心的な役割を果たすよう努めることを知っている	79%	保護者が子育てについて、気軽に園に相談できるように日頃から保護者とのコミュニケーションを大事に意識することを共通認識のもと対応している。子ども一人一人の家庭生活への理解を深められるようにしている。保護者、地域に子育てに伴う喜びが実感もてるように配慮し、園へ気軽に足を運べるような工夫が必要である。